

2024 年度事業報告書

(2024 年 4 月 ～ 2025 年 3 月)

事業の状況

1. 競技者登録 チーム登録 3,358 チーム 個人登録 32,661 人
2. 競技会の開催
 - ① 2024 年度日本マスタース水泳短水路大会
4 月 6 日 ～ 6 月 9 日 全国 27 会場
参加者数のべ 20,510 人、36,947 種目（個人 34,297 種目、リレー 2,650 種目）
 - ② 第 39 回日本マスタース水泳選手権大会（ジャパンマスタース 2024）
競泳競技 7 月 3 日 ～ 7 日 東京アクアティクスセンター
参加人数 6,636 人、12,452 種目（個人 11,828 種目、リレー 624 種目）
OWS 競技 9 月 8 日 常滑りんくうビーチ
参加人数 75 人
一般社団法人愛知水泳連盟「愛知りんくうオープン 2024」との共同開催
 - ③ 第 2 回日本マスタース水泳チーム対抗競技大会
9 月 15 日 ～ 16 日 日本ガイシアリーナ
参加人数 1,365 人、2,958 種目（個人 2,517 種目、リレー 441 種目）
 - ④ 2024 年度日本マスタース水泳長距離大会
10 月 26 日 ～ 27 日 サンフロッグ春日井
参加人数 285 人、328 種目（個人 293 種目、リレー 35 種目）
 - ⑤ 第 11 回日本マスタース水泳スプリント選手権大会
（ジャパンマスターススプリント 2024）
西会場 11 月 16 日 ～ 17 日 インフロニア草津アクアティクスセンター
参加人数 1,488 人、3,011 種目（個人 2,837 種目、リレー 174 種目）
東会場 11 月 30 日 ～ 12 月 1 日 千葉県国際総合水泳場
参加人数 2,599 人、5,092 種目（個人 4,730 種目、リレー 362 種目）
3. 地域大会の奨励指導
 - ① 公認大会 10 大会に競技委員派遣。
 - ② 地域担当理事 5 名を新任し、各地の競技会開催を奨励。
4. 競技会および記録の公認
 - ① 公認競技会 98 大会を開催（主催、記録会を含む）。
 - ② 129,960 件の記録を公認。
5. 国際大会の開催
主催および共催の競技会実施はない。

6. 日本記録公認および世界記録申請

- ① 日本記録樹立 485 個
- ② 世界記録樹立 91 個

世界記録を突破した記録を公益財団法人日本水泳連盟承認のもと世界水泳連盟 (World Aquatics) へ世界記録公認申請を行った。

7. 安全活動の促進

公益財団法人日本水泳連盟医事委員会、日本水泳ドクター会議、日本水泳トレーナー会議および公益財団法人日本ライフセービング協会と連携し、競技会の安全体制を確立するため、安全委員会を再設置した。

8. 競技会参加者の利便性の向上

- ① 競技会参加者の利便性を向上し参加意欲の向上を図るためのスマートフォンアプリ「JAPURI」の試験運用開始。
- ② AD カードのWeb ダウンロードの仕組みを構築。
- ③ 競技会の YouTube 配信、Facebook、Instagram などの発信を継続。

9. 普及促進活動

- ① ジャンボウポイントランキングを公表、上位入賞者の表彰式（3月1日アリーナショップ東京）を実施。
- ② マスターズ水泳競技者登録促進のため、日本学生選手権競泳競技大会（9月5日～8日 東京アクアティクスセンター）でブースを設置し宣伝活動を行った。
- ③ 競技役員講習会を東京、北海道、大阪で以下の通り実施。

東京	2月 9日	参加63人
北海道（札幌）	2月16日	参加50人
大阪	3月 2日	参加45人
- ④ マスターズスイマーと指導者のためのクリニックを実施。
6月22日 文京シビックセンター 会場参加40人、オンデマンド受講64人
- ⑤ 古賀淳也氏を講師に迎え、マスターズクリニック2024を実施
11月30日 千葉県国際総合水泳場 参加25人
- ⑥ 日本水泳トレーナー会議の協力のもと、選手のためのコンディショニング動画を公式ホームページで開示

10. 国内外の水泳団体との協力

- ① 公益財団法人日本水泳連盟へ加盟を継続。
- ② 公益財団法人日本水泳連盟、一般社団法人日本スイミングクラブ協会、一般社団法人日本パラ水泳連盟と共催し、水泳の日2024を9月22日、札幌で開催した。
- ③ 一般社団法人日本スイミングクラブ協会が主催するマスターズ水泳競技会の公認ならびに協力を行った。
- ④ 公益財団法人日本スポーツ協会ならびに公益財団法人日本水泳連盟主催の日本スポーツマスターズ2024水泳競技での登録者の記録を公認した。

⑤ 世界水泳連盟へ年間国内トップ10の記録情報を提出した。

11. 栄章

① スポーツグランプリ

公益財団法人日本スポーツ協会、日本スポーツグランプリに小野てる子氏（メガロス三鷹）を推薦し受賞した。

12. 刊行物

年間の公認記録を集計し、全国50傑ランキング2024を刊行した。

13. 寄付

一般財団法人 GSTR 財団に対し 50,000,000 円の寄付を行った。

以上